

「萩焼を超える」と、青雲の思いで

砥部焼「山田兄弟窯」(雲石窯・白水窯・

きよし窯)は、一族あげて作陶に励み、

現代砥部焼最強の陶工一族となった。

3兄弟窯の同時展示会は初で、

山田一族奮闘の歩みをたどる。

## 現代砥部焼最強の陶工一族

# 山田兄弟窯展

山田善吉(雲石窯初代〓故人)が大正5年に開窯し、後継した長男・正男(雲石窯2代目〓故人)に続き、二男・岩男(白水窯初代・昭和22年開窯〓故人)、三男・紀慶(きよし窯初代・昭和22年開窯〓故人)が独立開窯し、3兄弟窯ともに繁栄している唯一の窯元だ。茶器から始めたが、その後、花器・食器などの分野に幅を広げて作品は評価が高い。

雲石窯は3代目・善弘から砥部焼伝統路線に転換した。現在では京都留学した4代目・雅之と夫人の中元ひろみ(中元竹山2代目長女)が、受け継いだ技術などを、独特の濃い呉須を使った

食器などに生かしている。白水窯は茶器専門で、2代目・邦男が受け継ぎ、裏千家など茶道各流派とつながりを深め、茶器普及に努めた。きよし窯は、2代目・公夫が有田へ留学し学んだ技術で新境地を開く一方、ひろみ夫人が、華やかな絵付けで評判を呼び、夫婦で砥部初の日本伝統工芸士となり、ひろみ夫人は、愛媛県指定無形文化財や「とべりて」代表で活躍の場を広げている。

この他、くらし館では、所蔵の日本最大級のコレクション「夜着」の入れ替え、昔の砥部焼や生活用品、体験コーナーなど展示内容も充実して、2024年度シーズンの幕を開ける。

雲石窯

二代目 山田正男

白水窯

初代 山田岩男

きよし窯

初代 山田紀慶



国登録有形文化財  
砥部むかしのくらし館  
TOBE OLD DAYS LIFE & ART MUSEUM  
SINCE 1905



会期: 2024年3月2日(土)~7月28日(日)

tobe-mukashi-museum.jp



〒791-2132 愛媛県伊予郡砥部町大南701 TEL.089-962-5258 開館時間10時~16時(入場無料)、土曜日・日曜日のみ開館

かつて、そこに  
心温まる、  
くらしがあった。



国登録有形文化財

## 砥部むかしのくらし館

TOBE OLD DAYS LIFE & ART MUSEUM  
SINCE 1905

「砥部むかしのくらし館」は、明治38年(1905)、現存する砥部焼窯元の最大「梅山窯」(梅野精陶所)のビジネス拠点(梅野商会)として創立されたのを前身とする。主屋と蔵が砥部焼の産業遺産として「国登録有形文化財」に令和5年2月に登録された。

主屋は、商家らしい帳場や、優美で技巧的な造作をこらした座敷など、明治期の建築美が随所にうかがえる。砥部焼製品の貯蔵と出荷作業目的に建築された蔵は、砥部に唯一現存する最古の物。他に類を見ない大きく高い吹き抜けと、2階部分がトラス構造で柱がない空間が広がり、丈夫で使いやすい構造になっている。

この歴史的建物の中に、代々で蒐集した江戸時代から現代までの暮らしに関する

民具など約5万点が収蔵展示され、ミュージアムとして観覧できる。中でも日本最大級のコレクション「夜着」(着物の形をした掛け布団)が見物だ。全国的に数少なくなった幻の逸品が、「夜着回廊」などに、所有のうち16点が常時展示されている。

また、「淡黄磁」、「型染」、「唐草」など伝統的砥部焼コーナー、筒描、着物・帯などの展示ほか、砥部町今昔パネル、江戸時代から現代までの道具・生活用品などが所狭しとある。生活用品を使つての体験コーナーもあり楽しめる。日本庭園には、砥部焼の象徴的な陶鶴群、苔むした灯籠や庭石など百年の歴史を感じる風情のある庭を醸し出している。



廊下越しに庭に置かれた砥部焼の鶴を見る。



国登録有形文化財 旧梅野商会 主屋・蔵  
(砥部むかしのくらし館)



「夜着」日本最大級のコレクション



国登録有形文化財

## 砥部むかしのくらし館

TOBE OLD DAYS LIFE & ART MUSEUM  
SINCE 1905



〒791-2132 愛媛県伊予郡砥部町大南701

TEL.089-962-5258

【開館日】土曜日・日曜日(入場無料)

開館時間:10時~16時

tobe-mukashi-museum.jp



■ 駐車場のご案内  
当館南側の「商店街来客用駐車場」をご利用ください(無料)。